

「象牙取引規制に関する有識者会議」(第1回)資料

関東学院大学 経済学部 教授 中泉拓也

専門:規制の経済学、特に環境政策について、政策評価も含めて研究。近年、国際貢献や開発経済学も手掛ける。(特に開発経済と環境経済では、経済成長と環境保全をいかに両立させ、いかに持続可能な対策を行うかが目標)

1. 規制について

1)規制以外の方法の重要性

規制とそのインプリメンテーションが大前提。ただし、情報提供や技術開発、新技術の利用も含め、規制と同程度か、場合によってはそれ以上の効果がある対策も検討すべき¹。

2) 行動経済学の研究成果(ナッジ)の利用

近年行動経済学の研究:人々の癖をうまく利用することで、大きな効果を得るような対策が研究されてきている。それを人々の肩を少し押すという意味で、ナッジという²。

2. 取引市場の重要性

象牙の密猟を防止するために取引市場を閉鎖すべきという意見もあるが、以下の点で問題。

理由1:我が国では印鑑を中心として、象牙の実需が存在。需要があるのに市場を閉鎖した場合、ブラックマーケットが拡大し、むしろ違法な象牙が蔓延する懸念が高まる。

理由 2:サステナブルに象牙の違法取引を消滅させていくには、現地でも象の保護や密猟の防止が不可欠だが、それにはコストがかかる。そのコストを負担できないと、アフリカゾウの保護を継続できない。その収益を得るためにも、取引市場を閉鎖すべきではない。

3. 取引市場を運営しながら、象牙の違法取引を防ぐ方法

1) 取引市場を透明化し、IC タグなどの利用、健全な業者の登録制度の強化などガバナンスを強化することで、違法な象牙の取引を防ぐ。

違法な取引が横行する場合、アフリカ象や消費者のみならず、適法な取引を行っている事業者も被害を被る。そのため、合法的な取引を促進する健全な事業者の協力を得ることで、違法な

¹ 米国連邦予算管理局の規制の評価のガイドライン(Circular A-4)における C. Alternative Regulatory Approaches より https://obamawhitehouse.archives.gov/omb/circulars_a004_a-4/#c

² a)実践 行動経済学健康、富、幸福への聡明な選択 リチャード・セイラー、キャス・サンスティーン著 遠藤真美 訳 日経BP社 2009年7月

b)行動経済学の使い方(岩波新書),大竹文雄著,2019年9月

取引を削減していくことが持続可能な違法取引の防止につながる。

2)市場閉鎖ではなく、需要自体を削減することが最大の対策。

他国と比べ、我が国では印鑑の需要という実需がある点で、世界の中でも特殊な立場になっていると考えられる。伝統文化の継承のための楽器の需要はやむを得ないとしても、この印鑑の実需の部分に全く手をつけないと、世界的な信頼を得るのは難しいのではないかと。

そのため、印鑑で象牙の代替財の技術開発や普及啓発活動が有力。

なお、需要を削減せず、規制を強化するだけでは、むしろ象牙の価格を上げてしまうため、違法な密猟の魅力を高め、助長することにもつながりかねない³。

最後に、インバウンドとしての印鑑の需要が近年高まりつつあり、そういった印鑑でも象牙以外の素材の普及が可能と考えられる。

以上

2020年1月28日

³ 国際テロの資金源「象牙」の違法取引を許すな—日本が取り組むべきことは何か— 中泉拓也 東洋経済オンライン, 2016年10月, <https://toyokeizai.net/articles/-/140277>